

はじめに

この特集号のもととなったのは、愛知大学公開講座運営委員会主催により1994年10月～12月に開催された公開講座「変貌する中国の社会・経済・文化」（愛知大学車道校舎241番教室）である。この講座を企画・設定したのは同運営委員会であるが、具体的なプログラムは加々美光行教授により下記のように立案された。

- 10月22日 「ポスト鄧小平と21世紀の中国」
愛知大学教授 加々美光行
- 10月29日 「中国沿海発展と南北格差」
愛知大学教授 嶋倉民生
- 11月12日 「中国の外資導入と日本企業の対中進出」
愛知大学助教授 川井伸一
- 11月19日 「中国社会と公倫理」
大東文化大学教授 溝口雄三
- 11月26日 「中国経済成長と家庭生活の変化」
愛知大学助教授・中国社会科学院高級研究員 張 萍
- 12月3日 「よみがえる宗教」
愛知大学助教授 緒形 康
- 12月10日 「異文化の法を考える」
愛知大学教授 浅井 敦
- 12月17日 「中国経営学の発展と中国企業経営の課題」
愛知大学教授 野崎幸雄
(最終回は野崎教授の急病のため、加々美教授が代行し、総括的な講演をおこなった。)

この公開講座はたいへんな好評を博し、受講者は延べ2,089名、平均261名、最多363名を数え、本学公開講座としても稀にみる成

功を収めた。公開講座運営委員会はこれを活字としてより広く公にしたいと計画し、国際問題研究所の応諾をえて、本特集号発行の運びとなった。

この公開講座は、直接には、愛知大学の長年にわたる中国研究の成果を、溝口教授・張高級研究員という内外の研究者の協力をえて、“Extension Course”として設定したものであるが、当時準備中であった新学部「現代中国学部」構想を具体化するための一助としての意味をも帯びていた。

愛知大学は1991年に大学院中国研究科修士課程、94年同博士後期課程を設置したが、21世紀におけるさらなる飛躍をめざして、中国に関する新学部の設置を計画し、94年初からその準備をすすめ、構想委員会・準備委員会の検討をへて、現代中国学部の設置案をまとめた。

95年初には同学部設置委員会(委員長加々美光行教授)が発足し、全学的な検討をうけたうえ、9月末文部省に設置を申請した。

この申請は、大学設置・学校法人審議会の審査に付され、1996年2月第1次審査を通過し、しかも定員増に関する厳しい原則抑制のなかで、はじめて「新しい分野の開拓」という例外に属するものとして、定員純増を認められた。

なお第2次審査以下を残しているとはいえ、現代中国学部は、順調にいけば、1997年4月に名古屋校舎に開設されることとなるであろう。

本特集号は本学現代中国学部の発足を祈念し、予告する意味をもつものである。

1996年2月

1994年度公開講座運営委員会委員長

江口圭一